

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和4年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中連携による学力向上推進地域指定事業」を活かし、講師招聘による理論研究や、互いの実践事例を共有したことで、日々の授業を充実させ、全職員が指導力の向上を実現できた。</li> <li>・子供の表情・つぶやき・様子に異変があれば声をかけたり、一人一人と面談する時間を設けたりし、気になることは即報連相し、情報共有を図ったことにより、きめ細かな指導支援を行うことができた。中学校との連携には課題が残った。</li> <li>・学校の取組や学校目標の共有化は学校便りなどで図ることができ、一定の評価を得ることができた。しかし、学校HPの充実も課題として残った。</li> <li>・コロナ禍であったが、地域と連携した体験活動、地域講師を活用した句会など、地域との連携をとり学校教育の充実を図ることができた。活動の紹介などを積極的にを行い、地域に支えられている学校であるという認識を高めていく必要がある。</li> </ul>
2 学校教育目標	地域を担う夢に向かって伸びゆく富士っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 県指定「小中連携による学力向上推進地域指定事業」による小中連携の強化・改善を図ることにより、学力の向上を図る。（児童の主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業力向上）</li> <li>② 自他の命を大切に、郷土を愛する心豊かな児童を育てる。（道徳教育・人権教育の充実、小中できめ細やかな児童生徒家庭支援）</li> <li>③ 心身共に健やかにたくましく児童を育てる。</li> <li>④ 地域に信頼される「開かれた学校づくり」の推進。（学校運営協議会の有意義な活用、HP等を活用した地域・保護者への啓発）</li> </ol>

4 重点取組内容・成果指標	中間評価	5 最終評価	主な担当者
---------------	------	--------	-------

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践 ○主体的・対話的で深い学びに向けた交流活動の充実と話したくなる授業づくり	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 ○「授業中に進んで反応したり発言したりするようになった」という児童90%以上、「児童が話したくなるよう授業づくりを心がけた」という教員90%以上	●全職員でマイプランを共有する。 ・校内研修で取組内容・進捗状況を交流し、促進を図る。 ・「授業づくりのステップ1・2・3」を踏まえ、各教科で、自分の考えをまとめたり、交流・説明したりする場を意図的に設ける。 ・全校で「いじめ・いのちを考える日」や人権教室に計画的・組織的に取り組む。 ・道徳の授業づくりや、児童への日々の声かけなど「豊かな心」を育む指導の共通理解を図る。 ・クラスの友達と誰とでも交流できるような話し合いの場や活動を意図的に設定する。 ・毎月の教育相談・生徒指導協議会において、いじめの早期発見の視点からの情報交換を行ったり、心のアンケートで見られた問題点などの共有を図ったりする場を設ける。 ・児童一人一人の思いに寄り添う学級経営を工夫して行う。 ○「富士町が好き」「富士町を自慢できる」と答える児童95%以上 ○「何らかの将来の夢をもっている」と答える児童80%以上	C	・教職員間でマイプランを共有した。今後、定期的にマイプランの達成状況を確認していく。また、校内研修を開き、今後の実践に生かしていく。 ・「進んで反応したり、自分の意見を自信をもって言ったりできた」児童「できた」「大体できた」と答えた児童69%。「話したくなる授業作りを心がけた」という教員100%であった。児童と教員との差が大きいので、児童が話し合えてよかったと実感できる授業作りを今後も続けていく。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応体制の充実 ◎志を高める教育 目標の実現に向けて努力し、充実した学校生活を送ろうとする気持ちをもつ教育活動	○全校児童の「心の教育」に組織的に取り組めたい教員90%以上 ○「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童90%以上 ○学校が「楽しい」「安心できる」と思う児童90%以上 ◎「富士町が好き」「富士町を自慢できる」と答える児童95%以上 ◎「何らかの将来の夢をもっている」と答える児童80%以上	・「人権教室を開き、90%以上の教職員が参加し、取り組んだ。」 ・「たわわり活動やクラスの取り組みにより、「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童が90%。」 ・「こころのアンケートで児童の心情を掴み、90%ほど対応し、成果をあげつつある。」 ・「児童の異変に気付くように、各教職員が児童たちを見守っている。」 ・「地域の教育資源や人材等を積極的に活用した「ふるさと学習」を推進し、ふるさと富士町への誇りを高めさせていくとともに、地域への情報発信を行っていく。」 ・「キャリアパスポートの有効な活用を図り、各自の夢をもたせる。」	A	・「人権教室を開き、90%以上の教職員が参加し、取り組んだ。」 ・「たわわり活動やクラスの取り組みにより、「友達と仲良く遊んだり、声をかけたりすることができた」という児童が90%。」 ・「こころのアンケートで児童の心情を掴み、90%ほど対応し、成果をあげつつある。」 ・「児童の異変に気付くように、各教職員が児童たちを見守っている。」	A	・「3回人権教室を開いたり、毎月のいじめ・いのちを考える日の取組を行ったことにより、児童の人権意識を高めることができた。計画的・組織的に取り組めたと肯定的に答えた教職員は100%であった。」 ・「友達に優しく声をかけたり、仲良く遊んだりすることができた」と答える児童は96%であった。	A	・心優しい富士っ子の良さをさらに伸ばしてほしい。 ・悪いことをしたときには厳しく指導することも大切である。 ・情操教育等も積極的に取り組んでほしい。（今年度の演奏鑑賞会はよかった。） ・あいさつの取組を続けてほしい。	人権・同和教育主任 やさしさ部
●健康・体づくり	●「望ましい生活習慣の形成」 ○運動への意欲向上と体づくりの推進	○21時就寝を目標に、9時間睡眠をとるように意識することができたという児童90%以上 ○「体を動かすことが楽しい」と答える児童90%以上	・「保健便りや学校・学級だよりを用いた保護者への啓発や、中・学部と連携した「すこやか週間」の実践、「生活振り返りカード」の活用により「早寝早起き」の習慣を定着させる。」 ・「体育の異学年合同授業を積極的に取り入れ、授業づくりを工夫する。」 ・「縦割りグループの活動（なわとび大会）や各学級で県スポーツチャレンジに取り組むとともに、外遊びを推奨する。」	C	・「夜9時までに寝ることを意識することができた」と答えた児童は76%であった。引き続き「健やか週間」での意識付けや、学級指導を通して、早寝早起きを定着させる。	B	・「保健便りや学校・学級だよりを用いた保護者への啓発や、「すこやか週間」の実践、「生活振り返りカード」の活用して意識付けや学級指導等を行い、「早寝早起きの意識が高まったが、実践できる児童の割合は80%であり、定着までには至らなかった。」 ・「縦割り大会への取組の中で、たわわり班で休み時間を使わずに遊ぶ姿がみられた。」と答えた児童は92%であり、目標には到達したものの、個人差もみられる。今後、体を動かす楽しさを感じるような全学的な取組も充実させていく必要がある。	B	・朝は元気な挨拶ができないことが多い。家庭での生活習慣、学習習慣づくりが必要だと思う。学校と家庭との連携が必要である。 ・早寝早起きは難しいようであるが、引き続き呼びかけてほしい。	たくましさ部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・「学校行事の内容や準備に係る時間の見直しを行う。」 ・「定時退勤日、マイ定時退勤日の設定とともに掲示物やモニターを活用した意識の向上を図る。」 ・「年休取得を推進する。」	B	・「夏休みの研修計画で、1日でも長く休暇が取得できるように研修日程を調整できた。」 ・「4月～8月の時間外勤務時間の全職員平均は、36時間と昨年の41時間を下回っている。月による増減はあるものの、どの職員も昨年より減っている。」	B	・「長期休業時に年休を取得しやすい研修計画をたてることで、年休取得は促進された。時間外勤務時間前年より減少傾向にあるが、時間外45時間勤務者もみられる。引き続き意識改革を行うと共に、慣例となり行っていることの見直しや、業務の軽減のための方策など、全職員で話し合う場を設けながら、進めていく必要がある。」	B	・時間外45時間以上は是正すべき。 ・色々な業務で大変だと思う。積極的な業務の改善、働き方改革の推進をお願いしたい。	教務部

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
				★小中連携	★小中連携による学力向上推進のための共同研究（県指定事業）	○小中連携の全教職員が互いの授業を1回以上参観し、合同授業研究会を2回以上行う。 ○教科の指導内容や方法等について、中・学部と連携ができたと考えられる教師の割合90%以上	・「学力向上推進事業の研究発表に向けて、小中合同協議会の内容を充実させ、効果的な合同研修会を実施する。」 ・「児童理解や9年間を見通した学習習慣・規律など、連携についての工夫を図る。」	B	・「小中連携による学力向上指定校なので、小中合同協議会で話ができる場を設定し、機能させている。」 ・「コロナ禍でも行事がスムーズに行えるよう、中・学部と連絡を取り合い、柔軟に実施できた一方で、日常的な交流、自由に参観、臨機応変に情報交換し合う学校風土がまだできていない。」	
★コミュニティスクール	★学校運営協議会の充実	○保護者及び学校運営協議会委員の学校情報メール加入率100% ○学校HPを見たことがあるという保護者90%以上	・「学校便り」「学校HP」「学校情報メール」の活用及び学校運営協議会や地域学校協働活動推進本部を核とした連携を強化する。」 ・「保護者や地域への積極的な情報発信・受信を行う。」	C	・「保護者の学校情報メール加入率は100%である。」 ・「HPを閲覧しやすいように改善し、行事等の写真を掲載したり、学校・学級便りやメール等で保護者にHPの案内や活用について積極的に知らせたりしながら、さらに閲覧を促す。」	B	・「学校の取組や学校目標の共有化も学校便りなどで図ることができ、学校メールでの情報発信などにより、学校は情報発信を行っている」と答えた保護者は96%と多かった。しかし、HPの改善ができていなかった点は反省点であり、今後の課題である。	B	・学校の魅力などを外部に向けて発信するためにも、HP等の充実を図ってほしい。	教務部 学校HP担当

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「小中連携による学力向上推進地域指定事業」を通して、小中連携や授業づくりなどの研究を推進し、一定の成果を得ることができた。しかし、主体的な学び、自分の思いや考えを相手に伝える表現力においては課題が残った。次年度は、課題改善のために、さらなる授業改善・授業力向上に努める。</li> <li>・「心の教育」においては、いじめの早期発見・早期対応のため、日頃の見とり、アンケートなどから得られた児童の情報や全職員で共有し、児童は安心して学校生活を送ることができた。また、小中でも話し合いの機会を設け、互いの児童生徒理解が進んだ。今後も、細かな見とりを行い、SC,SSW等、専門家や外部機関と連携をとりながら、児童および家庭の支援を進めていく。</li> <li>・早寝早起きなど、望ましい生活習慣の形成に関しては家庭、児童の意識の向上が課題としてみられた。学びの基礎作りとして研究とも絡めながら取り組んでいく必要がある。</li> <li>・地域との連携は充実し、様々な体験活動を行うことができた。カリキュラムマネジメントの視点を持ち、教科と体験活動を有機的に結びつけるなど取組の充実と見直しを行う。また、地域情報発信の意味でもHPの充実を図っていく。</li> </ul>
--------------------	---